

# 新交通サービスに向けての取り組み

三重交通グループでは新交通サービスに向けての取り組みを積極的に行っています。

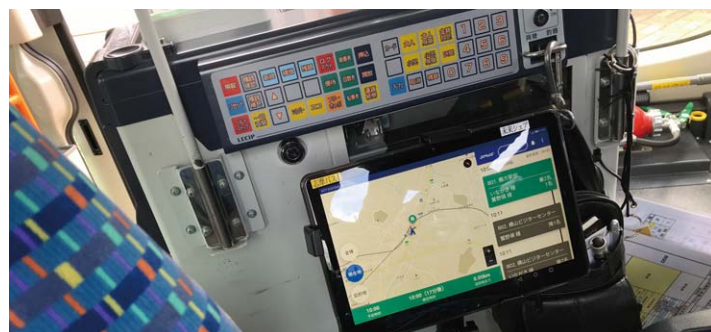
## 次世代移動サービス「MaaS」への参画

2019年6月、次世代移動サービス「MaaS」を推進する国土交通省の先行モデル地域に、三重県の志摩市と菟野町が選ばれ、当社グループでも実証実験へ参画してまいります。

志摩市は、「観光地型モデル」として、近鉄グループホールディングス(株)と協定を結び、バスやタクシーなどの交通情報や地図データ、決済手段を統合したアプリを開発し、「移動のサービス化」を目指しています。2019年10月、11月に第1回実証実験を行い、当社グループの三重交通(株)、(株)三交タクシーもそれぞれ区間の一部でオンデマンドバス等を走らせています。実証実験の結果を活かし、志摩市の交通における利便性向上と誘客に向けて取り組んでいきます。



オンデマンドバス



オンデマンドバス内端末



キックオフイベントの様子

人口が分散している菟野町は「地方郊外・過疎地型モデル」として選ばれ、三重交通(株)の路線バス及び町より受託して運行しているコミュニティバスや、御在所ロープウェイ(株)が運営するロープウェイ、鉄道、タクシーなどの乗り継ぎ困難を解消するため、交通手段を検索し、必要に応じて予約するシステムの構築を目指します。2019年8月21日には、菟野町と交通事業者らによる地域公共交通会議で、「菟野町版MaaS『こもののおでかけ』キックオフイベント」が開かれ、三重交通(株)と御在所ロープウェイ(株)も参加しました。

※MaaS (Mobility as a Service) とはマイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ(移動)を1つのサービスとして捉え、ICTを活用して検索・予約・決済等をシームレスに繋ぐ新たな「移動」概念

# スマートシティ実現に向けた実証実験へ協力



共同実証実験スタートデモンストレーション テープカット

名阪近鉄バス(株)は、大垣市のスマートシティ実現に向けた共同実証実験プロジェクトにおける連携協力に関する協定を締結し、2019年4月より大垣市、(株)ヴァル研究所と共同で、岐垣線においてバスローションシステム「BUS CATCH」を活用した「路線バスの位置情報の提供に係る共同実証実験」を行っています。この実験を通じ、リアルタイムにバスの位置情報や運行状況を提供し、バス利用の利便性向上、利用活性化を目指し、市民生活の向上に貢献していきます。

## 自動運転実証実験への協力

三重交通(株)は、自動運転を研究する群馬大次世代モビリティ社会実装研究センター、桑名市、桑名署などと共に「新交通技術導入検討準備会」を結成し、三重県桑名市中心部で2019年6月28日～30日の3日間、自動運転バスの実証実験を行いました。実験では、関係者約190人と一般公募の約100人が乗車。将来の導入を見据えて解決すべき課題点を洗い出し、少子高齢化社会に伴う公共交通機関のニーズや利便性の確保に対応していきます。

今後も自動運転の実現に向けて、積極的に取り組んでいきます。



実証実験出発式の様子

## 連節バス試験走行の実施

三重交通(株)と三重いすゞ自動車(株)は、2019年9月2日～6日の5日間、伊勢市内にて「連節バス」の試験走行を行いました。2021年春頃を目途に伊勢市内バス路線への連節バス導入を目指しており、今回の試験は走行環境や道路状況などの調査を目的として実施しました。

導入を検討しているいすゞ自動車の車両、「ERGA DUO (エルガデュオ)」(全長約18m、乗車定員119人)は、通常のバスに比べて7.5m大きく、乗車定員も44人多くなっており、導入すれば、輸送効率の向上による公共交通の利用促進、観光交通渋滞の低減などに寄与する事が期待できます。



外宮前を試験走行する連節バス



連節バス車内